

第12回

薬草だより

橋本竹二郎の植物画紹介 その 1







ヤハズホオノキ (モクレン科)

Magnolia officinalis var. biloba (Magnoliaceae)

生薬名: 厚朴 (コウボク)

樹皮を薬用部位とする。半夏厚朴湯、柴朴湯、 平胃散、五積散等に配合される。



ハトムギ (イネ科)

Coix lacryma-jobi var. mayuen (Gramineae)

生薬名: 薏苡仁(ヨクイニン)

種皮を除いた種子を薬用部位とする。薏苡仁 湯、桂枝茯苓丸加薏苡仁、麻杏薏甘湯等に配 合される。

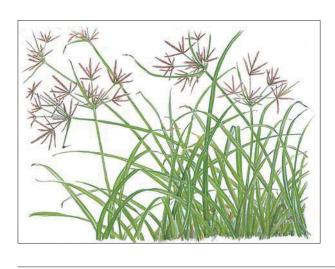


ハマスゲ (カヤツリグサ科)

Cyperus rotundus (Cyperaceae)

生薬名:香附子(コウブシ)

根茎を薬用部位とする。芎帰調血飲第一加減、香蘇散、竹茹温胆湯、柴胡疏肝湯等に配合される。



橋本竹二郎

松浦薬業株式会社顧問

来 歴

1931 年東京に生まれる。

牧野富太郎氏らと親交。津村研究所(現ツムラ)、名城大学薬学部、富山大学和漢薬研究所のほか、複数の製薬会社の顧問等を経て、現在に至る。

主な著書

「山路の花しるべ」(共著、巧玄出版, 1977)、「北陸の自然誌」(里見信生 編著, 巧玄出版, 1979)、「目で見る薬草百科 – 見分け方・採取時期・薬効と用い方」(永岡書店, 1984)、「薬草・花を描く – ハーブドローイング 植物画を楽しもう」(日貿出版社, 1994) ほか